

グランフロント大阪・ナレッジキャピタル
ナレッジキャピタルで生まれた成果の祭典
『Knowledge Innovation Award 2013』

世の中に革新を起こす新しい価値の誕生

92組の応募の中から、大阪大学大学院情報科学研究科の
「アソブレラ:遠隔降雨感覚共有装置」がナレッジイノベーショングランプリを受賞

2014年3月17日(月)13時30分から、グランフロント大阪「ナレッジシアター」(北館 ナレッジキャピタル 4F)において、ナレッジキャピタル参画者を対象に、今年度ナレッジキャピタルで行われた最もイノベティブな活動を選考し表彰する「Knowledge Innovation Award 2013 最終選考会・発表・授賞式」を開催いたしました。

「Knowledge Innovation Award」は、知的創造拠点「ナレッジキャピタル」が2013年4月の開業当初より目指している『世の中に革新を起こす新しい価値創造』の具体的成果を、ナレッジキャピタルに参画する企業・団体等を対象に募集し、ナレッジキャピタルで生まれた新しい価値創造を『ナレッジイノベーション』と称し、アワードという形で広く社会に発信するものです。今回の開催は、昨年4月のナレッジキャピタル開業後初の開催であり、まさに開業1年間のナレッジキャピタルの集大成ともいべきアワードとなりました。

募集は、展示・プロダクトなどを対象とした「モノ部門」、ワークショップ・イベント・プロジェクトなどを対象とした「コト部門」の2部門にて実施し、両部門合わせて計92組の応募がありました。

当日は、ナレッジイノベーショングランプリ、優秀賞(モノ部門3組、コト部門3組)、特別賞、ならびに7,200票を超える一般からのWEB投票により決定したオーディエンス賞の発表と授賞式が行われました。92組の応募の中から、最終選考にノミネートされた20組による白熱したプレゼンテーションが行われ、大阪大学大学院情報科学研究科の「アソブレラ:遠隔降雨感覚共有装置」が、第1回目のナレッジイノベーショングランプリを受賞しました。

選考委員長の河口洋一郎氏(東京大学大学院情報学環 教授/CGアーティスト)は講評で、「アワードを受賞した各プロジェクトが5年、10年とかけて、日本を背負うプロジェクトに進化・発展し、世界の舞台で勝負できるようにって欲しい」と、大阪発のイノベーションの活性化に期待を寄せました。



「Knowledge Innovation Award」授賞式の様子

■ナレッジイノベーショングランプリ 作品

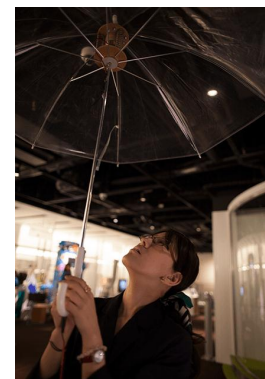
受賞者	タイトル	概要
大阪大学大学院 情報科学研究科	アソブレラ :遠隔降雨感覚共有装置	リアルな振動を再現するための振動子技術を新たに確立。降雨という繊細な情報を実際の傘を通じて表示する技術展示。

リアルな振動を再現するための振動子技術を新たに確立し、降雨という繊細な情報を実際の傘を通じて表示する技術展示を行った、大阪大学大学院情報科学研究科の「アソブレラ:遠隔降雨感覚共有装置」がグランプリを受賞。大阪大学大学院研究科の伊藤氏は、「振動再現技術の第一歩として、今回のアソブレラがある。今後は振動再現技術をさまざまなことに活用したい」とコメントしました。



ナレッジイノベーショングランプリを受賞した大阪大学大学院情報科学研究科の伊藤雄一准教授

「アソブレラ:遠隔降雨感覚共有装置」は、土砂降りの危険な雰囲気や小降りの柔らかい雰囲気を、時間や場所に縛られることなく体験することを目的としています。ナレッジキャピタル開業時より The Lab.内アクティブラボで展示されています。



アクティブラボにて展示中の「アソブレラ」

■優秀賞／オーディエンス賞／特別賞 作品

	賞	受賞者	タイトル	概要
優秀賞	モノ部門	鴻池運輸株式会社	作業負担軽減・省力化ロボットアーム	マッスル株式会社のロボット技術と立命館大金岡教授とのコラボによる、重量物運搬負担を軽減する体験型ロボットアーム展示。
		独立行政法人情報通信研究機構	けいはんな情報通信フェア 2013@うめきた・ナレッジキャピタル	例年けいはんな地区で開催していたフェアを2013年度はナレッジキャピタルでも開催。関経連も主催し、企業などとコラボによるコンテンツ開発も実現。
		凸版印刷株式会社	「ViewPaint」による驚きと感動を伝える新しい絵画の鑑賞方法の提案	フェルメール「牛乳を注ぐ女」の三次元空間化を行ったCG作品。絵画の中に入り込んで自由に立体的な視点移動が可能。
優秀賞	J部門	株式会社アーマリン近大／ 学校法人近畿大学	世界初！ 大学卒業“養殖魚”専門料理店	不可能と言われたクロマグロの完全養殖に成功、良質で美味しい未冷凍のマグロが食べられる大人気「養殖魚専門料理店」。現在も長蛇の列ができる状況。東京銀座にも2号店を展開。
		オリックス・リビング株式会社	介護現場のイノベーション 創出活動	介護現場の研究・開発・創造拠点。マッスルなどの企業と共同で実証実験を実施。
		ひさやん	あなたの声が、だれかの 目になる「ミミミル」	目が見えない人の目のかわりになる未来のメガネ「ミミミル」。

オーディエンス賞	モノ部門	関西大学 微生物工学研究室	大学の研究と伝統和菓子技術からなる“アスリート”のための「お餅」	伝統的な和菓子製造技術や研究機関、企業とコラボし、「お餅」をベースとした新しい機能性和菓子を開発中。
	コト部門	株式会社インサイトテクノロジー	db tech showcase Osaka 2013	大阪初の日本最大規模のデータベース技術カンファレンス。日本中のデータベース技術者同士がナレッジやノウハウを共有し、コミュニケーションやつながりが生まれる場。
特別賞	I	<p>受賞者 (プロジェクトメンバー):</p> <ul style="list-style-type: none"> ○製作協力: 落語家 桂米團治 ○監修: 大阪大学教授 石黒 浩 ○スキン製作: 株式会社シャイニー アート代表取締役 遠藤 慎也 ○企画: 株式会社サンケイビル元顧問 北村 公宏 ○プロジェクト事務局: 株式会社米朝事務所 会長 田中 秀武、株式会社米朝事務所 代表取締役社長 今井 浩 	米朝アンドロイド・プロジェクト	大阪・関西が持っている「ロボットテクノロジー」と上方落語という「伝統芸能」、そして特殊メイクという「先端的クリエイティビティ」の結合。ナレッジキャピタル開業時のシンボリックなコンテンツ。今なお進化・発展を続けるナレッジキャピタルから生まれた新しい文化のカタチ。

<参考資料>

<イベント概要>

- 名称** : 「Knowledge Innovation Award 2013 最終選考会・発表・授賞式」
■日時 : 2014年3月17日(月)13:30~18:00
■内容
 13:30~ オープニング~公開プレゼンテーション
 15:30~ 基調講演(一橋大学イノベーション研究センター長・教授 延岡健太郎氏)
 17:00~ 各賞発表・授賞式

※その他最終選考エントリー作品

<モノ部門>

応募者	タイトル	概要
ダイキン工業株式会社 (ダイキンソリューション プラザ「フーハ大阪」)	すべてのご来館者の好奇心を 刺激する『空気の気づきゾーン』	来館者に対し「空気」「熱」「ニオイ」などを五感を使って体感し、空気と触れ合い理解を深める展示ゾーン。来館者の体験から新商品開発に活用。
東京大学大学院 情報理工学系研究科 廣瀬・谷川研究室	Sharelog 3D	交通系 IC カードのログを都市の映像にマッピングするユーザー参加型のメディアアート作品。NICT 裸眼立体ディスプレイとのコラボも進行中。
日本電信電話 NTT メディアインテリジェンス 研究所	Visual SyncAR (ビジュアルシンカー)	動画に埋め込んだ電子透かしを AR マーカーとして高速検出・表示する「世界で初めての技術」。
フジキンソフト株式会社	遠隔画像診断支援システム	VIEWSEND INC(株)と共同開発したレントゲンや磁気共鳴画像装置(MRI)などの画像を遠隔読影できる“遠隔画像診断支援システム”。
マッスル株式会社	これからの介護生活	「介護する人もされる人も、優しさで安心を。そしておしゃれに。」をテーマに、介護用リフト、自動排泄物処理装置、対話型ロボットを展示

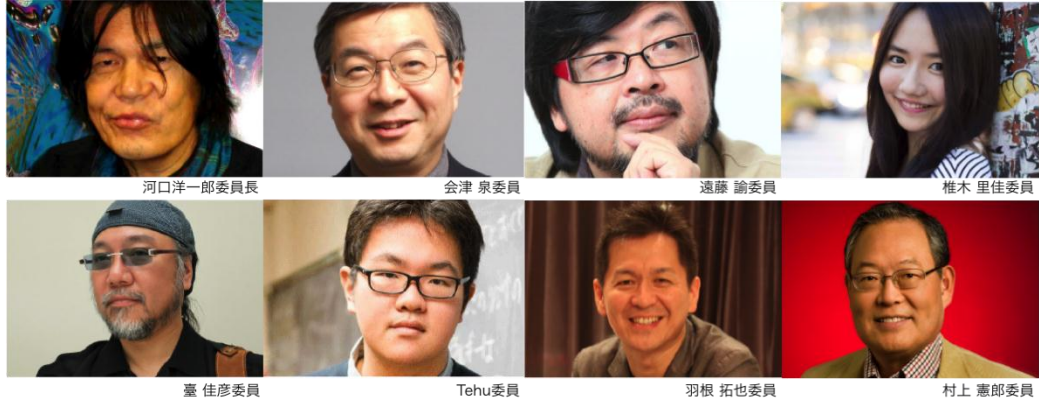
<コト部門>

応募者	タイトル	概要
ウエストユニティス株式会社	ウェアラブルでもっと便利に ~メガネ型コンピューターで 世の中を変えたい~	より使いやすいメガネ型ヘッドマウントディスプレイのシステム開発。
大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所/ 都市魅力研究室	なにわの語りべ活動の展開 <ナレッジシアターでの講演 および講座の実施>	大学が持つ文化・歴史を、映像を用いた語りを生演奏や芝居等を交えた講演形式で展開するプログラム。乙女文楽やイラストレーターとのコラボレーションを実現し、エンターテインメント性を追求。
大阪市(大阪イノベーションハブ)	イノベーション創出ワークショップ プログラム	多様な人材の融合によって、iPhone のような社会を一変させる製品やサービスの創出を目指すワークショップ。
大阪市立大学 健康科学イノベーションセンター	疲労研究に関する 「産-学-官-医-消(費者) 連携活動」の着手	「抗疲労」に関する研究機関や企業とのコラボレーションの成長を一般生活者がすぐに手に取り実践できる、健康科学に関する「産-学-官-医-消(費者)連携活動」の着手。
株式会社 コングレ	知と学びのサミット 「個性がはぐくむサイエンス ノーベル賞受賞者が語る」	ノーベル賞受賞者の下村脩博士と益川敏英博士が化学の楽しさを語る講演会。
積水ハウス株式会社 総合住宅研究所	ロボティクス技術を活用した 住まい共創研究	本田技研工業との共同プロジェクト。HONDA の UNI-CAB などの優れたロボティクス技術を生活にいかにか活用できるかを研究。実用化プロセス段階。
パナソニック株式会社 アプライアンス社グローバルマー ケティングプランニンググループ	グローバル顧客調査プロジェクト	新興国の衣食住を調査し、生活インフラの整備、あるいは家庭のくらしを支えるビジネスや商品の開発に繋げるための拠点活動。

■選考委員

幅広い専門分野、幅広い年齢層から、社会にイノベーションを創出してきた8人の選考委員にて構成。

- 選考委員長: 河口 洋一郎 (東京大学大学院教授 /CGアーティスト)
- 選考委員 : 会津 泉 (ハイパーネットワーク社会研究所理事長・所長 /多摩大学教授)
- 遠藤 諭 (株式会社角川アスキー総合研究所 取締役兼首席研究員)
- 椎木 里佳 (株式会社AMF 代表取締役 / 女子高生起業家)
- 臺 佳彦 (株式会社プラスヘッズ 代表取締役社長)
- Tehu (クリエイター/私立灘高等学校3年生)
- 羽根 拓也 (株式会社アクティブラーニング 代表取締役社長)
- 村上 憲郎 (村上憲郎事務所 代表 /元Google日本法人 名誉会長) ※五十音順



■基調講演

技術経営研究の第一人者であり、企業におけるイノベーション研究の専門家である延岡健太郎教授による基調講演。

- テーマ:「新しい価値づくりに向けて」～ワクワクする意味的価値とは?～
- 講演者: 延岡 健太郎 (一橋大学イノベーション研究センター センター長・教授)
- 講師略歴:

1959 年生まれ。81 年大阪大学工学部卒業。マツダ(株)入社、商品戦略担当。88 年マサチューセッツ工科大学経営学修士、93 年同経営学博士。94 年神戸大学経済経営研究所助教授、99 年同教授。2008 年より一橋大学イノベーション研究センター教授。12 年より同センター長。専門は経営戦略・組織、技術経営。主な著作:『マルチプロジェクト戦略』(有斐閣)、『MOT[技術経営]入門』(日本経済新聞社)、『価値づくり経営の論理』(日本経済新聞社)。『Thinking beyond Lean』(Free Press)など

